

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	嚥下障害Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼夜間部2年		学期及び曜時間	前期	教室名	402
担 当 教 員	橋田 直	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
嚥下に関わる器官の解剖、生理の復習、嚥下障害の総論・疾患別の病態、嚥下障害の評価について、嚥下リハビリテーションの手技及び治療法、リスク管理について						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
摂食嚥下障害学 2版(標準言語聴覚障害学)						
《授業外における学習方法》						
基本的な嚥下に関わる頭頸部の解剖・生理の理解が重要ですので、その部分の学習をしてください						
《履修に当たっての留意点》						
特になし。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下障害の概論と問題を理解する	なし		授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	嚥下障害の概論と問題点について			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下に関わる解剖生理を理解する。	なし		授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	頭頸部の解剖・支配神経、嚥下に関連する中枢機構について			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下時の運動について理解する	なし		授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	口腔機能、咀嚼機能、喉頭閉鎖、喉頭挙上の機構について			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下時の咽喉等の運動について理解する	なし		授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	鼻咽腔閉鎖、咽頭収縮、上部食道括約部開大の機構について説明できる。上部気道消化管の閉鎖部・括約部について			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	先行期・口腔準備期・口腔期・咽頭期別の嚥下時の随意運動、反射惹起、不随意運動について説明できる。	テキスト		授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	先行期・口腔準備期・口腔期・咽頭期別の嚥下時の随意運動、反射惹起、不随意運動について説明できる			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下の評価方法を理解する	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	嚥下障害の評価法を学習する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下の評価方法(VE, VFを理解する)	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	VE, VFの評価について		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下障害の基礎的な訓練法を理解する	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	嚥下障害の訓練法について		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下障害の代償方法について	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	嚥下障害の代償法について		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下障害の評価・訓練への理解を深める	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	嚥下障害の評価・訓練をどのようにすれば良いか、GWを用いて考える		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	気管切開とカニューレについて理解する	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	気管切開、カニューレの種類・その特性について		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下機能改善手術・誤嚥防止術を理解する	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	嚥下機能改善手術。誤嚥防止術とその適応について		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	脳血管障害の嚥下障害とその対応を理解する	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	脳血管障害の嚥下障害とその評価・訓練		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	神経変性疾患の嚥下障害とその評価・訓練を理解する	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	神経変性疾患の嚥下障害とその評価・訓練		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	老化・サルコペニアの嚥下障害について理解する	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	老化・サルコペニアの嚥下障害とその評価・、訓練		

## 2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼夜間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	嚥下障害Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼夜間部2年		学期及び曜時間	前期	教室名	402
担 当 教 員	橋田 直	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
嚥下に関わる器官の解剖、生理の復習、嚥下障害の総論・疾患別の病態、嚥下障害の評価について、嚥下リハビリテーションの手技及び治療法、リスク管理について						
《成績評価の方法と基準》						
定期試験100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
摂食嚥下障害学 2版(標準言語聴覚障害学)						
《授業外における学習方法》						
基本的な嚥下に関わる頭頸部の解剖・生理の理解が重要ですので、その部分の学習をしてください						
《履修に当たっての留意点》						
特になし。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	頭頸部癌の嚥下障害について学ぶ	テキスト	授業内容を復習してください	
		各コマにおける授業予定	頭頸部癌の嚥下障害について			
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	誤嚥性肺炎・窒息について理解する	テキスト	授業内容を復習してください	
		各コマにおける授業予定	誤嚥性肺炎と窒息について			
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔ケアとその有用性について理解する	テキスト	授業内容を復習してください	
		各コマにおける授業予定	口腔ケアについて			
第19回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	嚥下造影検査の異常所見を基に口腔準備期、口腔期における取り込み、咀嚼、食塊形成、送り込みの異常について説明できる。	テキスト	授業内容を復習してください	
		各コマにおける授業予定	嚥下造影検査の異常所見と病態1を学習する。			
第20回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	嚥下造影検査の異常所見を基に咽頭期における喉頭閉鎖、喉頭挙上、鼻咽腔閉鎖、咽頭収縮、UES開大の機構について説明できる。	テキスト	授業内容を復習してください	
		各コマにおける授業予定	嚥下造影検査の異常所見と病態2を学習する。			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	嚥下造影検査の異常所見を基に、口腔準備期、口腔期の異常所見別の代償法・訓練法の選択について説明できる。	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	嚥下造影検査の異常所見を基にしたリハビリテーション手技の選択1を学習する。		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下造影検査の異常所見を基に、咽頭期の異常所見別の代償法・訓練法の選択について説明できる。	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	嚥下造影検査の異常所見を基にしたリハビリテーション手技の選択2を学習する。		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	嚥下障害患者のマネジメントを理解する	テキスト	授業内容を復習してください
		各コマにおける授業予定	まとめ		
第24回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第26回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第27回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第28回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第29回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第30回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			